



2016 「エクアドル地震」 による被災文化財支援を 考える



2018

11/11

日
参加費
無料

11:00~16:50
[開場10:30]

開催
場所

東京国立博物館 平成館 大講堂

(東京都台東区上野公園 13-9)

当日は東京国立博物館「西門」からお入りください。

定員 200名 (先着順、申込不要)

日本語・スペイン語(同時通訳)

プログラム

- 11:00~11:05 開会挨拶 1
豊城 浩行(文化庁文化財鑑査官)
- 11:05~11:10 開会挨拶 2
ハイメ・バルベリス(在日エクアドル全権特命大使)
- 11:10~11:40 特別講演
「エクアドル地震2016」による文化財被害と日本の取り組み
大平 秀一(東海大学)
- 11:40~12:05 コメント 関 雄二(国立民族学博物館)
日高 真吾(国立民族学博物館)
高妻 洋成(奈良文化財研究所)
小谷 竜介(東北歴史博物館)
和高 智美(文化創造巧芸)
- 12:05~13:30 休憩(昼食)
- 13:30~14:00 「2016エクアドル地震」以後の考古文化遺産の復興:
その問題と課題
マルコス・ラブラーダ
(セロス・オハス・ハボンシーリョ遺跡公園・考古博物館)

- 14:00~14:30 「2016エクアドル地震」による被災博物館復興の
課題と問題: マナビ県の事例
ヤケリーネ・アルバレス(国立ホルトビエホ博物館・文書館)
- 14:30~15:00 中越地震で被災した文化財の修復と博物館の復興
—考古資料を中心に—
小熊 博史(長岡市立科学博物館)
- 15:00~15:30 東日本大震災と合戦原遺跡の保存と活用
山田 隆博(山元町教育委員会)
- 15:30~15:45 休憩・打ち合わせ
- 15:45~16:45 パネルディスカッション
「エクアドル地震による被災文化財の支援を考える」
コーディネーター 関 雄二
パネリスト マルコス・ラブラーダ
ヤケリーネ・アルバレス
大平 秀一 小熊 博史 山田 隆博
- 16:45~16:50 閉会挨拶

[主催]

[共催]



2016年のエクアドル地震では、 エクアドルの多くの文化遺産が被災した。

その後、エクアドルでは、被災した文化遺産に対してどのような対策をとればいいのかの議論がおこなわれているが、有効な方法論が見出せていない状況である。そこで、本シンポジウムでは、日本で蓄積された文化財防災の取り組み、被災文化財の保存・修復・活用の実例、博物館復興の実例等を示した上で、エクアドルで直面している問題を共有し、今後向かうべき道筋を共に模索する討論をおこなう。

講師紹介



大平 秀一
Shuichi Odaira

東海大学教授



関 雄二
Yuji Seki

国立民族学博物館
副館長・教授



日高 真吾
Shingo Hidaka

国立民族学博物館
准教授



高妻 洋成
Yosei Kozuma

奈良文化財研究所
埋蔵文化財センター長



小谷 竜介
Ryusuke Kodani

東北歴史博物館
副主任研究員



和高 智美
Tomomi Wadaka

文化創造巧芸代表



**マルコス・
ラブラーダ**
Marcos Labrada

セロス・オハス・
ハボンシーリョ遺跡公園・
考古博物館館長



**ヤケリーネ・
アルバレス**
Yacquelina Álvarez

国立ポルトビエホ博物館・
文書館館長



小熊 博史
Hiroshi Oguma

長岡市立科学博物館
館長



山田 隆博
Takahiro Yamada

山元町教育委員会主査

アクセスマップ



当日は東京国立博物館「西門」からお入りください。

問い合わせ先

東海大学文学部 大平研究室

〒259-1292

神奈川県平塚市北金目4-1-1

TEL:0463-58-1211(内線:3013)

FAX:0463-50-2026

e-mail:sh.odai@tokai-u.jp

